



# 営農NEWS



## バレイショ栽培における植付前の準備作業について

### 1 バレイショの種イモが届いたら、注意して保管してください

種イモを入手しましたら速やかに開封し、イモを払げて通気をよくして下さい。傷み（シミ）や腐敗したイモは、取り除いてください。保管温度は2～5℃くらいがよく、日陰の涼しい乾燥した場所で高く積み上げずに保管します。

なお、0℃以下に長時間遭遇したり、高温にさらすことや通気の悪いビニール等で覆うことは避けてください。また、種イモの合格証票は、事故処理時に必要となりますので、大切に保管してください。

### 2 種イモの消毒を行いましょ

植付前に種イモ消毒を行うことにより、種子伝染病害の黒あざ病やそうか病を防除します。なお、種イモの消毒は、出きるだけ未萌芽のうちに行いましょう。薬剤によっては、萌芽後や種イモ切断後の処理で薬害の発生する場合があります。薬剤処理は下記を参考に行ってください。なお、各薬剤とも植付前の処理回数は、いずれか1回までです。

#### 1) 黒あざ病とそうか病の同時防除

①アタッキン水和剤の40倍液に5～10秒間浸漬します。または、

②アタッキン水和剤の40倍液を、種イモ100kgあたり2.5～3ℓ散布します。なお、この場合、種イモは床などに広げて、全体が均一にぬれるよう丁寧に散布します。

#### 2) 黒あざ病の防除

①リゾレックス水和剤の50～100倍液に10分間以内で浸漬します。または、

②モンセレン粉剤DLを種イモ重量の0.5%量を粉衣します。

#### 3) そうか病の防除

①カセット水和剤の30倍液に瞬間浸漬します。または、

②アグリマイシンー100の40～100倍液に5～10秒間浸漬します。または

③アグリマイシンー100の40～100倍液を、種イモ100kgあたり2.5～3ℓ散布します。なお、この場合、種イモは床などに広げて、全体が均一にぬれるよう丁寧に散布します。

### 3 浴光催芽を行いましょ

丈夫な芽を出し初期生育を揃えるために、浴光催芽を行いましょ。

まず、①植付3～4週間前（品種や温度により若干の差があります）から、湿気のない庭先や倉庫の窓際、ハウス内などで、コンテナを利用したり床に直接、種イモを薄く並べて（3段くらいまで）浴光催芽を開始します。床が地面の場合は、シート等を敷いて行いましょ。

②催芽温度は日中10～20℃くらいで、出来るだけ外気温に合わせるために施設内では十分換気を行い、20℃以上の高温は避けましょ。25℃以上になると、障害が発生する場合があります。また、夜間は凍結しないように注意しましょ。

③催芽期間中に週1回程度は、上下を入れ替えて均一に光をあてます。萌芽は5mmくらいを目安にします。

### 4 畑の準備作業を行いましょ

バレイショの連作は、収量、品質ともに低下しますので、出きれば3～4年間バレイショの作付けがない圃場を選びましょ。土壌酸度は微酸性が良く、中性～アルカリ性の場合は、そうか病の発生が多くなるので注意しましょ。圃場の耕起は10日前までに、完熟堆肥を全面に散布して、出きるだけ深く行いましょ。

### 5 適切な大きさの種イモに調整しましょ

育芽がすんだ種イモは、芽が2～3個ついて重さ30～60g程度になるよう調整します。1個が60g未満のものは切らずに丸植えし、60～120gは2つ切り、120g以上は3つ切り以上とします。なお、切断は原則、頂部から基部にタテ切りします。切断後は、ゴザ等で覆って2～3日置き、切り口をコルク化させてください。

農薬を使用する際は、ラベルの登録内容（適用作物、使用方法）、注意事項などをよく確認のうえ、周辺への飛散に十分注意して使用して下さい。